

第1回 全国招待大学対校男女混合駅伝 開催のためのガイドライン
(新型コロナウイルス感染症予防対策)

本大会主催者は上記大会の開催のために、日本陸上競技連盟の「ロードレース開催についてのガイドライン」(2021年1月15日改訂)を参考に、下記の内容を作成しています。なによりも大会の安心、安全を第一に運営を行う予定ですので参加校、関係者、皆様は本ガイドラインの遵守をお願いいたします。大会に参加する主催者各団体関係者については、以下の対策に必ず取り組んでください。

- ① 2週間前から密になるような場所にはいかない。
- ② ミーティングはソーシャルディスタンスを保ちながら換気のできる場所で行う。
- ③ 人が多く集まるような場所に行って食事をしない、また大声で話をしない。

❶ 基本注意事項

1. 「3密」の回避

- ・ソーシャルディスタンスを2m以上確保し、人数を制限する。
- ・マスクの着用を徹底する(ただし、競技中の選手は除く)。
- ・更衣室等大会に使用する部屋は、窓やドアを開放して空気が滞留しないよう換気を徹底する。

2. 感染症対策

- ・感染経路となりうる共有物品など高頻度接触部位については、主催者において定期的に消毒を行うが、参加各人も注意し、接触後の手洗いを徹底する。
- ・大会期間中は、積極的に手洗い、手指消毒をし、ハンカチ、マイタオルは持参する。
- ・感染が疑わしい競技者は、招集所で検温を実施し状況により参加を許可しない。
- ・陽性者との接触可能性等の情報を通知し感染拡大を予測する、国の接触アプリや大阪府の新型コロナ追跡システムの活用も積極的に行う。

3. 危機管理体制の設置

- ・今大会にかかる感染症予防対策の策定およびその意思決定を行う「第1回全国招待大学対校男女混合駅伝 新型コロナウイルス感染症対策室」(以下、対策室という)、また当該対策室の業務を補佐する対策分室を設置し、感染症予防策や感染者、濃厚接触者、感染の疑いある者が出た際の対応を関係機関と連携してあたるものとする。
- ・対策室は主催者である関西学生陸上競技連盟、関西テレビ、産経新聞社が委員を担い、それぞれの担当責任者が業務を行う。
- ・大会関係者が発熱、風邪の症状がある場合には、速やかに各委員に報告をする。
報告内容については、主催者間で共有し、安全・安心な運営にむけ最善の取り組みを尽くす。また大会運営にかかわる内容は委員を通じて各主催・運営団体に速やかに報告を行う。
- ・各委員は、事前に地元の医療機関と感染症対策を講じた上で打ち合わせを行うものとする。

② 大会参加事項

1. 競技役員、大会関係者、学生補助員、選手、チームスタッフ（監督、コーチ、主務等）は、所定の「体調管理シート」を主催者側に提出する。また、参加校は今大会における健康管理責任者を決め、当該者は「体調管理チェックシート」、クラスター感染症を防ぐため、大会に参加する選手、チームスタッフ、名簿を作成して主催者に提出する。なお、検温に関して大会開催地に入る日には自宅（下宿、寮を含む）で一度、また宿泊場所に入る前にも行う。当日は宿舎で検温を行い、37 度以上の発熱があればスタッフに報告して出場を見合わせる。発熱者については参加校の責任で、直ちに大会開催地から退去させるとともに、主催者側に報告を行う。関西学連、主催者は個人情報の第三者への提供の同意も得る。取得した個人情報は大会終了後、少なくとも 1 ヶ月以上は主催者側で保管し、保管期間を過ぎた当該情報は適正かつ速やかに廃棄を行うとともに、廃棄した証を保管する。
2. 下記に該当する場合は大会関係者の参加を認めない。
 - ① 「体調管理チェックシート」の提出がない。
 - ② 大会当日の朝の検温で 37 度を超え、強い倦怠感と息苦しさがある。
 - ③ 発熱がなくても風邪の症状やひどい体調不良となっている。
 - ④ 同居家族や知人、友人に感染が疑われている。

③ 選手、付添輸送事項

1. 参加校は、選手、チーム関係者については参加校の責任で前日宿泊する宿舎まで輸送を行う。
2. 大会終了後、選手、チーム関係者は速やかに帰路につく。
3. 参加校は、開催地域に入ってから検温するための選手、スタッフ用の検温計を用意する。

④ 審判移動事項

1. 原則として各個人の車両にて移動し、現地集合・現地解散とする。ただし、公共交通機関を利用の際は感染予防を徹底し、マスクの着用は怠らない。
2. 複数で移動する際、会話は換気を行ったうえで行う。

⑤ 補助員移動事項

1. 輸送（公共交通機関）の際は、極力会話を避けるようにする。
2. 37 度以上の発熱や風邪の症状がある場合には、補助員は交代要員を出してもらおう。
3. 補助員業務が終われば、大会終了後、選手、チーム関係者とともに速やかに帰路につく。
4. 参加校は補助員が大会当日検温するために検温計を用意する。

⑥ 宿泊施設事項

1. 宿泊所内の対策について

- ・ 検温計を準備する。エントランスおよび施設内に手指消毒設備を設置する。
- ・ ホテルスタッフとの接触はできるだけ避け、接触する際は必ずソーシャルディスタンスを確保する。
- ・ ロビー、浴場、食堂等、宿泊者が同時に利用する場所の消毒を徹底する。

2. 部屋割りについて

- ・ 1部屋につき基本的な収容人数より割合を減らし割り振るよう調整する。
- ・ 可能な限り、参加大学には1部屋1名を割り当てる。

3. 食事について

- ・ 感染症予防対策のため夕食、朝食ともに弁当での対応も検討する

4. 入浴について

- ・ 宿泊室内にある浴室を利用し、大浴場の利用は禁止する。

5. 宿泊者への対策について

- ・ 入退館時の手指消毒とマスク着用を徹底。 37度以上の発熱がある場合、即時帰宅させる。

⑦ 中継所事項

1. 招集所について

- ・ 競技役員の打ち合わせについては、可能な限り書面やメールにて行い、事前および当日に行う打ち合わせは、ソーシャルディスタンスをとりながら簡潔に済ませるように努める。
- ・ 招集の際は拡声器を使用し、選手が密にならないよう、集合させずにコールを行う。
- ・ 選手は密にならずソーシャルディスタンスをとり審判はユニフォームとアスリートビブスを確認する。

2. 選手の待機場所について

- ・ 宿舎から会場に到着した選手、スタッフは待機場所で主催者が用意した検温計で検温を行う。
- ・ 競技役員は選手及びスタッフに対し、ソーシャルディスタンスを保ち、注意喚起を行う。
- ・ 選手は競技中以外、できるかぎりマスクを着用する。なお、マスクは各自で持ち帰り廃棄する。また、マスクが落ちていた場合には、手袋着用の上、清掃トングを使うなど直接手に触れずに廃棄する。
- ・ 会話は必要最低限に済ませ、チーム関係者は選手に大声で話しかけない。

3. 選手受け止めについて

- ・ ゴール後、選手受け止めをする競技役員はマスク、フェイスシールド、手袋を着用する。
- ・ 付添も競技役員と同様にマスク、フェイスシールド、手袋を着用する。
- ・ ゴールした選手にはマスクまたは代用品を提供し着用、手指消毒を促す。

⑧ トイレ事項

1. 感染症防止の張り紙を貼付する。

2. 洋式トイレでは蓋をした後に流すことを徹底する。石鹸または消毒液の常備を行う。

⑨ 応援事項

1. 部員、大学関係者の大会開催地域での応援は、主催者側の指示に基づいて行う。
2. 保護者・卒業生には、できうるかぎり参加大学から HP や SNS で応援自粛の周知を行う。
エントリー時にはその内容を主催者側に報告を行う。
3. 地元住民には、事前に告知をし（手段については要検討）、今年度については感染症予防対策のために公園内会場での応援を自粛するように要請する。

⑩ 自主整理員事項

1. 自主整理員が安全、安心な大会として活動を行うために、体調管理チェックシート（大会2週間前からの検温、健康状態のチェック）を主催者に大会当日に提出してもらい、また大会終了後2週間健康管理シートで体調管理を行う。発熱（37度以上）や風邪の症状がある場合、前日または当日の集合時間までに関西学連責任者に連絡をし、欠席を伝える等、主催者が行う感染症予防対策に同意した行動をとる。
2. 自主整理員に参加する際にはマスクを必ず着用する。
3. 大会用の物品（手旗、カラーコーン等）を持つ際には原則、手袋をして行う。また、その作業が終了したら手洗いを励行し、手指消毒を行う。
4. 複数の自主整理員が配置される地点で、ソーシャルディスタンスを保てないと考えられる地点では、マスク以外にフェイスシールドの着用を行い、予防対策をとる。（大会主催者と要相談）
5. 自主整理員については、競技運営目的以外に感染症予防対策目的に個人情報を取得する旨の通知を行う。また、個人情報の第三者への提供の同意も得る。取得した個人情報は大会終了後少なくとも1ヵ月以上は主催者側で保管し、保管期限を過ぎた当該情報は適正かつ速やかに廃棄を行う。なお、大会主催者である関西学連、関西テレビ、産経新聞社は自主整理員に感染症患者が出た場合は、直ちに報告を受けることができる態勢を各所担当者と構築する。

⑪ 報道取材関係事項

1. 申請について
 - ・ 関西学連の HP に事前に申請方法をあげ通知する。体調管理チェックシートの提出がない場合は取材の受付を認めない。密になる可能性がある場合、申請場所で取材できない場合があることを通知する。
2. 大会前日、当日の取材について
 - ・ 受付時には、申請用紙と体調管理チェックシートの提出を厳守させる。また、同時にその場で検温を実施することを通知する。
 - ・ マスク着用の徹底を通知する。
 - ・ 取材方法・取材人数・取材エリアの遵守、必ず主催者の指示には従うことを周知する。

⑫表彰事項

1. 表彰式についてはレース終了後、競技場内所定のエリアにて速やかに行う。
2. 表彰式ではソーシャルディスタンスを確保しながら、密にならない環境のもとで行う。

⑬その他の事項

1. 競技終了後、すべての箇所（机、いす、パソコン）で清掃、消毒を行う。
2. 参加者は大会後、発熱や倦怠感などの症状が4日以上続く場合は、必ず最寄りの自治体の衛生部局と大会主催者に報告を行う。
3. ゴミは各自ビニール袋に入れて持ち帰る。招集所等にあるゴミ箱は全て使用不可とする。
4. 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。
5. 怪我、病気の応急措置については検温を再度した上で医師、看護師等医療従事者が対応するが、急病による発熱と感染症による発熱の区別がつかない場合には別途その場にいる医療従事者と相談して対応を行う。
6. 第1回全国招待大学対校男女混合駅伝開催にあたり、本ガイドラインを感染症関連部署（保健所、コロナ受入病院、消防署）に事前に送付し必要に応じて説明、相談、助言をあおぐ。